

西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

第 7 号

1989年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター



岡山市高塚遺跡から銅鐸出土

銅鐸は弥生時代にわが国で作られた青銅器で、まつりに使われたと考えられていますが、これまで発掘調査で出土したことはほとんどなく、今回の出土は銅鐸の埋められた状態を詳しく知ることのできる資料として貴重です。

銅鐸が出土したのは集落内にある穴の一つで、

横に倒された銅鐸がすっぽりと納められていました。穴は楕円形で、大きさは長さ75cm、幅40cm、深さ40cmでした。銅鐸の高さは58cm、裾部の幅は27cmで、表面には水の流れを表わしたような文様が描かれています。岡山県内出土の銅鐸ではもっとも新しいものです。

（岡本寛久）

最近の発掘調査から

上野遺跡 —真庭郡久世町—



上野遺跡全景

昭和62年度から実施してきた中国横断自動車道の建設に先だつ埋蔵文化財の発掘調査も、先行する真庭郡川上村以外に、本年度から同湯原町と久世町でも始まりました。

今回紹介する上野遺跡は、久世町の市街地から北東に3km程離れた比較的平坦な丘陵上に位置しています。標高は245m程で、眼下を南流する余川（旭川の支流）が形成した谷底平野との比高差は60m程あります。山が険しく平地のほとんどみられないこの地域にあって、上野遺跡の所在する丘陵上は、たいへん自然条件に恵まれた所といえるでしょう。現在、この場所は町営の観光果樹園として利用され、シーズンともなると多くの観光客で賑っています。

この4月から路線内にて調査を実施しているのは、上野遺跡全体の西端部にあたり、地形からみて、遺跡の中心部分と考えられている所です。現在までにほぼ全体が把握できたのは約3,000m²で、縄文時代の土壌（穴ぐら）や弥生時代後期に営なまれた集落の一端をうかがうことのできる遺構が明らかになっています。

縄文時代の遺構としては、2基の土壌があります。どちらもよく似た形状をしていて、



縄文土壌

比較的残りのよい土壌の場合、上面では1.1×0.6mの楕円形、底面は0.9×0.4mの隅丸長方形、深さは1m程で、底面のほぼ中央部に直径約20cm、深さ約30cm程の小さい穴が掘り込まれていました。埋土からは、わずかに数点の縄文土器片が出土しただけなので、明確な所属時代は不明ですが、埋土の質や他の遺跡での検出例からみて、この土壌が縄文時代のものと考えられます。なお、この種の遺構の性格については、動物捕獲用の落とし穴と考えられています。

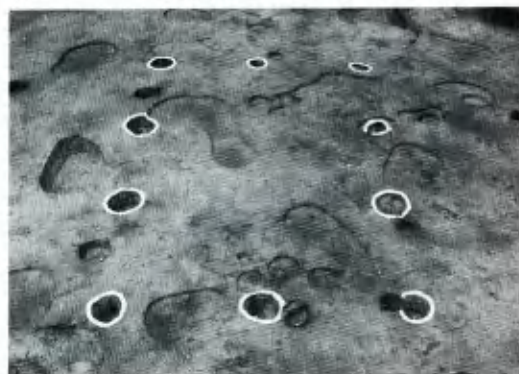
弥生時代後期の遺構としては、竪穴住居跡10軒、掘立柱建物10棟、土壌46基、段状遺構4基、などですが、このうち竪穴住居跡は、時代が新



焼失住居

しくなるにつれ規模が拡大している様子が認められました。上野遺跡で最大の竪穴住居跡は、直径が約10.5mの円形の住居跡で、このような規模をもつものは県下でもあまり例がありません。なお、調査区の東端で良好な状態で焼失住居が発見されました。竪穴住居跡の上屋構造を知る上で、貴重な資料となるでしょう。また、掘立柱建物は、1×1間の小型のものが7棟、2×3間の大型のものが2棟、規模不明のものが1棟発見されました。これらは通常高床倉庫と考えられています。これ以外に、上野遺跡で特徴的な遺構として、底面が平らで深さが1m

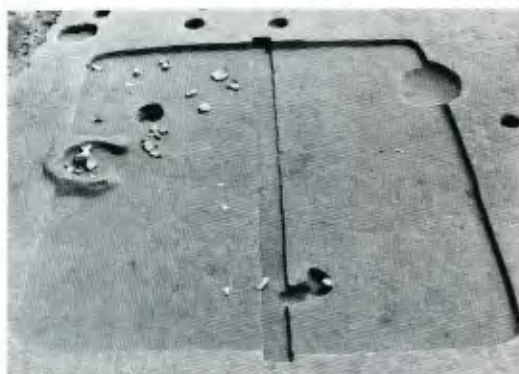
前後の土壌群があげられます。この種の土壌は、全土壌中の9割以上を占めています。調査区において、特に集中する所はいくらか認められるようですが、全体としては全域からまんべんなく発見されています。上面の形状は、円形、楕円形、隅丸形状を呈し、断面はやや内傾しながらもほとんど垂直に立ち上るものと、いわゆる袋状をなすものが認められます。後者については、従来より貯蔵穴と考えられていますが、前者についても断面形以外は共通する要素が多



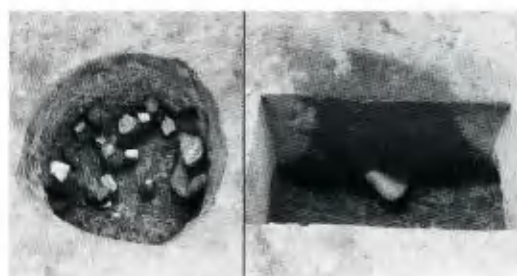
掘立柱建物

高塚遺跡

高塚遺跡は山陽自動車道建設に伴い、平成元年4月から発掘調査を実施しています。この遺跡は遺跡地図に記載されていませんでしたが、ルート決定後表面調査によって土器片が採集されたことから、昭和63年1月～2月にかけて試掘調査を実施しました。調査の結果、東西方向に続く自然堤防があり、弥生時代・古墳時代および中世の遺跡の所在が確認されました。北側



カマド付の竪穴住居跡



貯蔵穴

く、貯蔵穴と考えて差しつかえないものと思われます。これらの貯蔵穴の中には、周囲に4つの柱穴を有するものがあり、何らかの上屋を設けていたものがあつたことも判明しています。

遺物は、縄文土器片（早・前・後期）、弥生土器片（後期）、石庖丁、石斧、砥石、すり石、土玉、鉄鏝等の鉄製品が出土しています。

以上のように、上野遺跡は弥生時代後期を中心に営なまれた集落跡であり、中国地方山間部地域での当該期の集落のあり方を考えるうえで貴重な資料を提供するものと思われます。

（池上 博）

跡 一岡山市高塚一

は旧河道であることもわかりました。発掘調査の対象面積は約18,000m²になります。現在までに調査された遺跡の概要は以下のとおりです。

弥生時代の遺構には竪穴住居跡、掘立柱建物土壌、溝などがあります。竪穴住居跡は31軒あり、平面形は円形を呈するものが多い、掘立柱建物は2棟あります。土壌には長方形と円形のものがあつて、方形のものには長辺2～3mのものがあつて、大型の貯蔵庫と推定されます。円形のものにも、下部が大きくなって、いわゆる袋状土壌と呼ばれる貯蔵庫もあります。溝は集落のはずれに近いと思われる東側に幅3.5mのものが1本検出されています。遺物では多量の土器のほか銅鏝、石器、勾玉、ガラス滓などがあります。銅鏝はフロヤ調査区と呼ばれる西寄りの地区で発見されました。埋納用の土壌中から発見されたもので、学術的に貴重な発見です。しかも銅鏝が集落跡から出土する例はありません。

古墳時代の遺構には竪穴住居跡、土壇などがあります。竪穴住居跡は49軒あり、平面形は方形を呈しています。5世紀代に比定されるものが多数検出されており、同時代としては県内では最も良好な集落跡と思われます。5世紀中頃以降のものにはかまどが付設されています。かまどは一辺の中程に設けられるのが一般的ですが角に設けられた例が4軒あります。角田調査区で検出された3.6m×4.22mの竪穴住居跡にも角にかまどがあり、この付近の床面に韓式土器と呼ばれる格子目タタキの付いた甕、把手にきざみ目のついたこしき、在地の甕、小型の壺、高杯などが検出され注目されています。他の竪穴住居跡からも小型の韓式土器を出土した竪穴住居跡があります。陶質土器も出土しており、朝鮮半島との関連を示しています。その他の遺物では須恵器、土師器、勾玉、管玉、白玉、鉄斧などがあります。

古代の遺構では3間×2間の掘立柱建物1棟が検出されています。遺物には須恵器、瓦などがありますが余り多くありません。

ひやっけんがわはら 百間川原尾島遺跡

旭川放水路の河川改修事業に伴う百間川遺跡群の調査は、今年度で13年目となりました。今回は、百間川原尾島遺跡（丸田地区）の4月から9月にかけて実施した調査と、当地区の中世遺構について紹介します。

4月～9月の調査で検出した遺構には、縄文時代晩期から弥生時代前期を中心とする自然河道、弥生時代後期の水田、弥生・古墳時代の井戸や溝、そして中世の掘立柱建物・井戸・土壇



竪穴住居跡内の韓式土器出土状況

鎌倉時代以降になると再び遺構・遺物が多くなります。北西部の河道が埋没して微高地が広くなり、集落の中心も少し西へ移動しています。現在までに検出されている遺構は掘立柱建物、井戸、土壇、墓、溝などがあります。掘立柱建物は19棟検出されています。井戸は板を井げたに組んだ底に曲げ物がありました。中世の墓は16基検出されています。そのうちの1基からは和鏡1面、刀子1口を副葬したものがあ

りました。（正岡 睦夫）

墓・溝・柵・柱穴などがあります。また遺物では、中～近世の溝から出土した瓦経片が特筆されます。瓦経は平安時代後期に流行した埋納経典で、県内では5か所めの貴重な発見です。

当地区で注目されるのは、東端を堀で画する室町時代の村が見つかり、さらにその中が溝によって数単位の屋敷地に区画されていたことです。屋敷地内には数棟の掘立柱建物があり、これらは2～3棟の単位で母屋・納屋・倉庫等を構成していたと考えられます。また建物が重複することや、残された多くの柱穴から数時期におよぶ建て替えがあったようです。各屋敷地の南北の長さは不明ですが、東西は18m、20m、39mで、一家族の私有地の大きさに差があったことがわかります。そしてそれぞれの屋敷地内には、各1基の井戸がありました。井戸からは、備前焼の甕や搦鉢、常滑焼、中国製陶磁器、曲物や折敷の底板、漆塗椀、下駄などの日常生活品とともに、呪符木筒、小刀などのまじないの



原尾島遺跡出土瓦経片



百間川原尾島遺跡（丸田地区）中世遺構図

道具が見つかっています。その他屋敷地の内外には、土壇墓と考えられる長方形の遺構や柵がありました。土壇墓には遺物が見られず、豊富な副葬品を持たなかった人々の墓なのでしょう。

さて以上の中世遺構ですが、これらはすべて東西か南北の方向に規制されていて、条里と現在考えられている地割と深い関係があるようです。

（高田 恭一郎）

津寺遺跡丸田調査区出土の土製馬

初夏のある日、「置物が出ましたで！」という作業員の弾んだ声に小走り現場に駆けつけてみると、この奈良時代の土製馬が横たわっていたのでした。今まで各地で出土している土製馬は、頭や胴体の一部だけ残っているものが大半で、このように全体の大きさや形がわかるものは、とても珍しいのです。土製馬は、文字どおり土でつくられた馬ですが、灰色に硬く焼かれた陶馬と、素焼で膚色の軟かい土馬に分けられ、これは、前者にあたります。また、人が乗馬する時に必要な、鞍・手綱などの馬具をつけた飾り馬もありますが、これは、何もつけていない裸馬です。この土馬をよく観察してみると、立派なたてがみや耳をていねいにつくり、眼や

鼻の穴は竹を半分に分けて押しつけて表現しています。また、尻尾の下には尻の穴もみられます。足は、1本しか完全に残っていませんが太くがっしりとしたものです。長さは25.6cm、高さ15.6cm、重さ870gのこの土馬は、県内ではもっとも大きいものです。

さて、この土馬は何のためにつくられ、そして、こわされたのでしょうか。古代では、馬は神の乗り物と信じられており、人々は馬を神にささげて、色々な願いをかけたといわれています。はじめは、生きた本物の馬を殺して、神に捧げていたのですが、次第に土や木でつくった形代（身代わり）によって、おもに洪水や日照りを鎮めたり、雨乞いを水神に祈ったりする祭に使われたようです。祭の儀式の時に、こわして、水に関係の深い溝や川などに捨てたのです。また、疫病やききんをもたらす厄病神を追い払うため樹木や、門につるした「絵馬」の起源もこの土馬にあるといわれています。

（岡田 博）



普及啓発事業

I. スライド発表会

—「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」—

当センターでは普及啓発活動の一環として、昨年に引き続きスライドを使用して、県下各地で行われている埋蔵文化財発掘調査のうちおもな遺跡について、その内容・成果を紹介する報告会を、関係機関の協力を得て下記の要項により開催しました。

1. 日時 8月5日(土) 13:30~17:00
2. 場所 岡山県立博物館 講堂
3. 発表遺跡
 - (1)百間川原尾島遺跡(岡山市)……文化財センター
 - (2)岡山城関連遺跡、大廻り小廻り山城跡(岡山市)……岡山市教育委員会
 - (3)荒神風呂遺跡・荒神風呂古墳(落合町)……文化財センター
 - (4)岡山大学構内遺跡(岡山市)……岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 - (5)山陽自動車道関連遺跡(岡山市)……文化財センター
 - (6)西栗坂古墳群、日畑廃寺(倉敷市)……



- …倉敷市教育委員会
- (7)小原遺跡、茶山古墳群(津山市)……津山市教育委員会
- (8)中国横断道関連遺跡(川上村)……文化財センター

当日は県下各地から120名を越える方々が参加され、熱心に調査担当者の発表を聞いておられました。また、質疑応答にも活発な意見がかわされました。

II. 平成元年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは8月23・24日両日に、吉備小学校の6年生を対象として「夏休み少年考古教室」を開催しました。当センターの職員たちの指導のもと、第1日目は室内での体験学習を中心として37名が、土器の文様復元や拓本のとり方などに取組みました。文様の復元ではこよりを燃やすことが思うようにできず、また拓本のとり方では紙が破れたりして悪戦苦闘していました。第2日目は野外での体験学習を中心に、火おこしや土器による煮炊き・石器づくりに56名が参加し、汗を流しながら昔の人々の生活に思いを馳せていました。火おこし体験ではなかなか火をつけることができず、昔の人は火をおこすこと一つにしても大変苦労していたことを改めて

感じていました。石器づくりでは、展示や写真で見えていたように整った形にすることはできなかったようですが、尖った石片の切れ味のよさに驚いていました。



土器の文様の復元



火おこし

日 程

第 1 日 8月23日(水)		第 2 日 8月24日(木)	
10:00	開講式	10:00	体験学習②
10:20	センターの見学		・火をおこす方法
11:10	入門講座		・土器による増づくり
12:00	昼 食	12:00	・モミのついた米を白米にする方法
13:00	体験学習①	13:00	・土器による煮炊き
	・土器の文様復元		昼 食
	・拓本のとり方	15:00	体験学習③
15:30	映像学習		・石器づくり
	ビデオ「究極のごはんの炊き方(謎学の旅)」		道跡の見学
16:00	あとかたづけ	16:00	・屋上車山古墳
			閉講式



脱穀と精米

考古学教室

西 浜 絵 美

私は、この考古学でいろいろなことを学びました。さいしょの体験学習でびっくりしたことは、土器の文様の復元でした。縄文式土器などは、縄で文様をとることは知っていましたが、この縄を編むのがこんなにたいへんだとは、知りませんでした。ちょっとでも編みかたがゆるければ文様をとった時うまくできなかつたり、良い文様にならなかつたりしたので、「文様をとるぐらいかんたんだ。」と思っていた私はとてもおどろきました。あと、2回目の体験学習では、火おこしがどれだけたいへんかを知りました。火おこしの道具を使って火をおこしましたが、とてもたいへんで、火をおこしている人は、あせをすごくかいていました。火が付きそうになるとみんなは、その火をけすまいとひっしてました。私もその時は、とてもどきどきしました。でもけっきょく私たちの班は、火がつかず、他



石器づくり

の班から火をもらいました。その他にも、米をたくときの水の量や、さかなを焼くときは、こげぐわいなどどれくらいにすればおいしく食べられるかなどをひっして考えたりしました。そしてでき上がったご飯などは、みんなで協力して作ったのでとてもおいしかったです。

今は、ガスコンロやご飯をたく機械があるので、もうスイッチひとつでご飯が食べれる時代なのに、昔は、ご飯もそうですが、それ以外のこともいっしょうけんめいにやらなければ生きてゆけないのだと思い、いろいろ勉強しました。

(字句等原文のまま)

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成元年度)

〈組織〉



〈職員〉

所次	長	長瀬日出明
(調査第一課長)	長	河本 清
総務課	長	竹原 成信
総務係	課長補佐(係長)	藤本 信康
	主任	岡田 祥司・平松 郁男
	主事	片山 淳司
	主事	杉野 正・嶋田 慶彦
	主事	大西 治郎・渡邊 徹也
調査第一課	第一係	課長補佐(係長)
		文化財保護主査
		文化財保護主任
		文化財保護主事
		主事
第二係	課長補佐(係長)	柳瀬 昭彦
	文化財保護主査	平井 勝・藤田 耕平
	文化財保護主任	内藤 善史
	文化財保護主事	宇垣 匡雅・高田恭一郎
	主事	椿 真治
	課長補佐(係長)	下澤 公明
	文化財保護主査	山磨 康平・福田 正継

文化財保護主事	大智 浩・松岡浩太郎
主事	池上 博
調査第二課	長
第一係	葛原 克人
課長補佐(係長)	井上 弘
文化財保護主査	二宮 治夫・林 久夫
	吉田 正士
文化財保護主任	光永 真一・源 俊二
文化財保護主事	広瀬 隆明・安井 悟
主事	大橋 雅也
第二係	長
文化財保護主任	高畑 知功
文化財保護主事	中野 雅美・鳥崎 東
主事	福田 計治・山本 了峰
	村田 秀石・後藤 信義
	土井 一行・石黒 勉
第三係	長
文化財保護主任	岡田 博
文化財保護主事	井上 篤
主事	片山 泰輔・亀山 行雄
	澤山 孝之・柴田 英樹
	古市 秀治・波多野博和
調査第三課	長
第一係	正岡 睦夫
課長補佐(係長)	松本 和男
文化財保護主任	江見 正己・垣内 一也
主事	平井 泰男
	佐守 学・弘田 和可
	横山伸一郎・谷岡 孝久
第二係	長
文化財保護主査	浅倉 秀昭
文化財保護主任	窪田 廣志・古谷野寿郎
文化財保護主事	岡本 寛久・栗尾 昭和
主事	川崎 肇
	長川 優・森 宏之
	小松原基弘

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分

